

ウィキペディア

# 鳥居

---

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

**鳥居**（とりい）とは、神社などにおいて神域と人間が住む俗界を区画するもの（結界）であり、神域への入口を示すもの。一種の「門」である。

## 目次

---

### 概要

### 起源

文化人類学的な観点

語源

### 構造

材料

### 形式

神明鳥居に代表されるもの

明神鳥居に代表されるもの

### 著名な鳥居

日本三鳥居

日本三大鳥居

日本三大石鳥居

京都三珍鳥居

その他

### ギャラリー

**小便避け・不法投棄対策としての鳥居風の置物**

### 脚注

### 参考文献

### 関連項目

### 外部リンク



皇大神宮（伊勢神宮）宇治橋の大鳥居（三重県伊勢市）



厳島神社の大鳥居（広島県廿日市市）

## 概要

---

鳥居を立てる風習は、神社の建物がつくられるようになる前から存在した<sup>[1]</sup>。古来日本では、屋根のない門という意味で「於上不葺御門（うえふかずのみかど）」ともいった。中国の「華表<sup>[2]</sup>」の訳を鳥居とするので、過去には漢文で「華表」と記したこともあったという<sup>[3]</sup>。

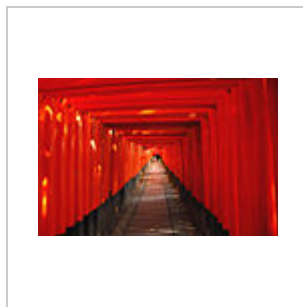
鳥居は一般的には神社を象徴するものとして捉えられているが、仏教寺院にも見られることがある（→神仏習合）。一方で鳥居を持たず楼門（随神門）をもつ神社も存在する。戦後の区画整理により境内が縮小されたり移転したため、現在の神社境内とはかけはなれた場所に孤立している鳥居もしばしば見かけられる。御陵に建てられていることもある。

図案（意匠）としては神職であった氏族や家（いえ）が家紋として用いることがあるほか、現在の地図記号では神社を意味する<sup>[4]</sup>。

俗信においては、鳥居の上に石を投げて乗せると願いが叶うといわれることがある<sup>[5]</sup>。

数え方は、「**1基**、**2基**」と数える。一般にひとつの参道に複数の鳥居がある場合は、一番外側から「一の鳥居、二の鳥居…」と呼ぶ。また、神社の前に形成された町のことを「鳥居前町（とりいまえまち）」と呼ぶことがある。

稲荷神社などの鳥居が朱色であるのは、古来その色が生命の躍動を表し災いを防ぐとして神殿などに多く使われたためで、これが鳥居にも影響しているとされる<sup>[6]</sup>。



皇大神宮（伊勢神宮）正 伏見稲荷大社の千本鳥居 家紋「鳥居」  
宮（三重県伊勢市）

## 起源

鳥居の起源については諸説あり、考古学的起源についてはっきりしたことは分かっていない。単に木と木を縄で結んだものが鳥居の起こりであると考えられる<sup>[1]</sup>。文献に徴すれば古くは「於不葺御門（うへふかずのみかど）」（皇太神宮儀式帳<sup>[7]</sup>）と称して、奈良時代から神社建築の門の一種としている<sup>[8]</sup>。いずれにせよ、8世紀頃に現在の形が確立している。

そのほか主要な説として、天照大御神（あまてらすおおみかみ）を天岩戸から誘い出すために鳴かせた「常世の長鳴鳥（とこよのながなきどり）」（鶏）に因み、神前に鶏の止まり木を置いたことが起源であるとする説、日本の冠木門に起源を求める説、インド仏教にみられるトーラナや中国の華表や鳥竿、牌楼（ぱいろう）、イスラエルの移動型神殿、雲南省とビルマとの国境地帯に住むアカ族（英: **Akha**）の「村の門（ロコーン）」など海外に起源を求める説などがある<sup>[9][10][11][12]</sup>。また、ユダヤ教と関連があるとする説もある（日ユ同祖論）<sup>[13][14]</sup>。満州には鳥居のような冠木門が見られる<sup>[15]</sup>。





インド仏寺のトーラナ説



中国の牌楼説



冠木門篠山城（兵庫県）

## 文化人類学的な観点



**この節は検証可能な参考文献や出典が全く示されていないか、不十分です。**出典を追加して記事の信頼性向上にご協力ください。（2011年9月）

現在の雲南省とビルマとの国境地帯に住むアカ族（英語：Akha、中国ではハニ族）の「パトオー・ピー（精霊の門）」という村の入口の門では、上に木彫りらしき鳥が置かれることや<sup>[16][17][18]</sup>、鳥を模した造形物を飾る風習もあることが実地を調査した研究者<sup>[10]</sup>から報告されていることから、日本の神社でよく見られる「鳥居」の原型は、アカ族らが長江流域から南下、避難してくる前、長江流域に住んでいた時代（百越人であった時代）の「鳥居」ではないのか、という説もある。アカ族の村の門には鳥の木形が置かれるが、同様の鳥の木形は日本での稲作文化の始まりとされる弥生時代の遺蹟である池上・曾根遺跡や纏向遺跡でも見つかっており<sup>[12]</sup>、また他にも多くの遺蹟でも同様である<sup>[19]</sup>。

そのほか、更に遡った歴史観として「鳥居を赤く染めるのは古代ユダヤ教（ヘブライ聖書）の影響を受けている」や「秦氏はイスラエルの失われた10支族の一族である」という日ユ同祖論や、朝鮮半島の紅箭門にもとづく説も見られるが、疑似科学の域を脱するものではない<sup>[20]</sup>。

## 語源

<sup>[21]</sup>語源についても同様に不明である。鶏の止まり木を意味する「鶏居」を語源とする説、止まり木（あるいは神前止まり木）説<sup>[22]</sup>、「とおりに（通り入る）」が転じたとする借字説<sup>[9]</sup>、トーラナを漢字から借音し表記したとする説などがある。Karow&Seckelは<sup>[23]</sup>鳥居の名称を鳥（Vogel）そのものに求め、死者の家として家屋の中心部だけを残して崇敬の対象としたとの説をとる。

構造そのものに着目した説としては、鳥居桁（架木）説とでも呼ぶもので、そもそも建築用語として高欄の横木の最上部のものを鳥居桁と呼ぶことは奈良時代の資料から明らかになっており、障子の上桁の横木を鴨居と呼ぶのと同じく、「トリイ」とは古来からの建築用語であり、これが神社門に転じたとする説である。奈良時代に「トリイ」の語は建築用語として存在し、平安初めに一般神社門は「トリイ」と俗称され、平安中期にはこの名称が庶民によって用いられたとする<sup>[24]</sup>。

## 構造

2本の柱の上に**笠木**（かさぎ）、2層の水平材とする場合に上層の笠木に接して**島木**（しまぎ）を渡す。その下に貫（ぬき）を入れて柱を固定したのが一般的な鳥居の構造である。他に、貫と笠木の間に**額束**（がくづか）を建てることもあり、柱下部に**亀腹**（かめばら。饅頭ともいう）を施したり、掘立であれば**根巻き**や**根巻き石**（ねまきいし）を施すことがある。笠木と柱の間に**台輪**（だいわ）という円形の保護材をつける例もある。

鳥居の分類は大別すると、柱や笠木など主要部材に「照り」や「反り」、（柱の円柱加工を含まない曲線を表す加工）があるかないかである。照りや反りが施された代表例としては**明神鳥居**（みょうじんとりい）があり、それらが施されない代表的な例としては**神明鳥居**（しんめいとりい）があげられる<sup>[3]</sup>。

## 材料

材料は木材（檜・杉など）で造られた「木鳥居」、石で造られた「石鳥居」、銅板で全体を葺いた鳥居を「銅鳥居・金鳥居（かなどりい）」などが一般的。銅鳥居は、「唐金（からかね）の鳥居」と呼び、江戸時代には浮世絵などに描かれている。

ただし、木製は土に触れていると腐り、さらにシロアリに食害されてしまうことも考えられる。木製の柱が土に触れている例がある。

佐賀県西松浦郡有田町にある陶山神社の鳥居は陶磁器製、京都府八幡市にある飛行神社の鳥居はステンレス製、秋田県八郎潟町にある副川神社の鳥居は塩化ビニール製である。その他にも鉄筋コンクリート製や鉄パイプ製のものなどがある。

氏子の負担を軽減させるため建て替え時には安価で耐久性にも優れた硬質塩化ビニール製の鳥居が選択されることも増えてきている<sup>[25]</sup>。

## 形式

建てられる鳥居の形式は寄進者の好みによることが多く、鹿島神社に春日鳥居が建てられるようなこともあるように祭神と関連を持つことは少ないが、山王鳥居は日枝神社（山王神社、日吉神社）になどと結びつくものもある。

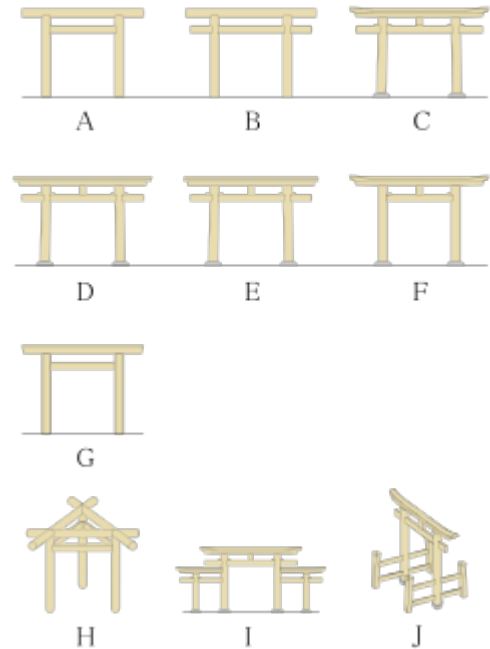
## 神明鳥居に代表されるもの

神明鳥居に代表されるものは、柱や笠木は丸材を用いることもあるが、全体的に直線の部材が用いられる。神明鳥居は素朴な形式で、全体的に直線的である。笠木柱には丸材、貫には板材が用いられることが多い。笠木の下に島木がなく、貫は貫通せず、柱は地面に対し垂直に立てられている。伊勢鳥居とも言うように、伊勢神宮において現れたと考えられており、この類に外宮鳥居がある。この形式のバリエーションとして、貫に角材を用いたものが、靖国神社をはじめとする各地の護国神社で広く見られることから、特に靖国鳥居と区別することがある。

春日鳥居、鹿島鳥居、八幡鳥居の類は、明神鳥居と同様に、笠木の下に島木があり、貫が貫通し、春日・八幡鳥居の柱には転びが施されるが照りや反りは施されない。ちなみに、春日鳥居と八幡鳥居は、笠木と貫の木口を斜めに切るか切らないかの違いのみで主要部は同様に造られる<sup>[3]</sup>。

- 神明鳥居（伊勢鳥居）
- 鹿島鳥居（かしまとりい）
- 春日鳥居（かすがとりい）
- 八幡鳥居（はちまんとりい）
- 黒木鳥居（くろきとりい）
- 靖国鳥居（やすくにとりい）
- 内宮源鳥居（ないぐうげんとりい）

- 宗忠鳥居（むねただとりい）
- 三柱鳥居（みはしらとりい） - 正三角形平面に組み合わされ三柱の鳥居。
- 城南宮鳥居（じょうなんぐうとりい） - 京都市伏見区の城南宮の本殿に向かって正面にある鳥居。基本型は神明鳥居に属するが、柱下に饅頭があり、棟の部分に島木・笠木を重ねて、さらに屋根を葺いている。その島木の正面中央に神紋の金具が打たれている。<sup>[26]</sup>



鳥居の種類

- A「神明鳥居（Shinmei torii）」
- B「鹿島鳥居（Kashima torii）」
- C「明神鳥居（Myōjin torii）」
- D「八幡鳥居（Hachiman torii）」
- E「春日鳥居（Kasuga torii）」
- F「中山鳥居（Nakayama torii）」
- G「外宮鳥居（Gekū torii）」
- H「三柱鳥居（Mihashira torii）」
- I「三輪鳥居（Miwa torii）」
- J「両部鳥居（Ryōbu torii）」

## 明神鳥居に代表されるもの

明神鳥居は笠木の下に島木があって反りが加えられている。柱は地面に対して少し傾斜（転び）をつけて立てられている。宇佐鳥居以外は笠木と貫を額束で連結して補強している。

- 明神鳥居
- 稻荷鳥居（いなとりい） - 柱と笠木の接合部に台輪が取り付けられている。台輪鳥居（だいわとりい）ともいうが、台輪を付けた鳥居はこれに限るものではない<sup>[27]</sup>。
- 山王鳥居（さんのうとりい） - 明神鳥居の笠木の上に破風を付けたもの。破風鳥居ともいう。
- 奴禰鳥居（ぬねとりい） - 島木と柱の間に台輪を持ち、額束の代わりに叉首（さす）を入れる。
- 三ツ鳥居（みつとりい） - 1つの明神鳥居の両脇に小規模な明神鳥居を2つ付けたもの。三輪鳥居（みわとりい）ともいう。
- 中山鳥居（なかやまとりい） - 笠木は明神鳥居と同様に造るが、貫を貫通させない。
- 宇佐鳥居（うさとりい） - 宇佐神宮の鳥居で額束がない。笠木に桧皮葺の屋根をかける。
- 両部鳥居（りょうぶとりい） - 主柱を4本の稚児柱で支える。
- 住吉鳥居（すみよしとりい） - 柱に角材を用いる。住吉大社拝殿内の物は、貫が柱を貫通していない。

## 著名な鳥居

### 日本三鳥居

- 吉野・銅の鳥居（かねのとりい）（重要文化財）

金峯山寺（きんぷせんじ）蔵王堂の参道に建つ。室町時代のものと伝えられる。高さ約8メートル。  
額束は「発心門」



金峯山寺 銅の鳥居



- 安芸の宮島・**朱丹の大鳥居**（木造）（重要文化財、世界遺産）

厳島神社・社殿前の海中に建つ。楠造り両部鳥居。現在の鳥居は平安時代から数えて8代目で明治8年（1875年）7月に完成したもの。

神額：沖側「厳島神社」、神社側「伊都岐島神社」（有栖川宮熾仁親王染筆）



厳島神社 夜のライトアップ

- 大阪四天王寺・**石の鳥居**（重要文化財）

永仁2年（1294年）に造られた日本最古の石造りの大鳥居の一つとされている。

扁額の文字：「釈迦如来 転法輪処 当極楽土 東門中心」



四天王寺 石鳥居

## 日本三大鳥居

幻冬舎文庫「あなたは3つ言えますか? 日本の三大雑学236」による<sup>[28]</sup>。

- 厳島神社
- 伊勢神宮（三重県）
- 春日大社（奈良県）



日光東照宮石鳥居

## 日本三大石鳥居

- 日光東照宮（重要文化財）

黒田長政による寄進。

- 八坂神社（重要文化財）

南楼門前の鳥居。

- 鶴岡八幡宮（重要文化財）

一の鳥居 若宮大路の南側の鳥居。



八坂神社石鳥居

## 京都三珍鳥居

- 木嶋坐天照御魂神社 三柱鳥居
- 厳島神社 (京都市上京区) 京都御苑内の唐破風石鳥居
- 北野天満宮境内社 伴氏社の石鳥居



鶴岡八幡宮一の鳥居

## その他

- 熊野本宮大社

高さ33.9メートルの日本最大の鳥居。（2011年8月1日現在）

- 伏見稲荷大社

約1万基の鳥居がある。

- 平安神宮

高さ24.4メートルの鳥居。

- 気比神宮

国の重要文化財。木造としては3番目の高さがある。

- 元木の石鳥居

国の重要文化財。山形市にある平安時代建立の日本最古の石鳥居。

- 野宮神社

鳥居は樹皮がついたままの「黒木鳥居」で、古代の鳥居の形式を伝えている。

- 粟嶋神社 (宇土市)

日本一小さな鳥居といわれる「腰延べ鳥居」、これをくぐると婦人病を初めとするさまざまな病が平癒するといわれる。

- 陶山神社 (有田町)

明治 21年 (1888年) 奉納の磁器製の鳥居。

- 山王神社 (長崎市)

二の鳥居は原爆の爆風により片方の柱が吹き飛び「一本柱鳥居」と呼ばれる。



大神神社の大鳥居

## ギャラリー

---



皇大神宮別宮伊雑宮の参  
道口



皇大神宮別宮風日祈宮の  
御橋



二見興玉神社の夫婦岩



明治神宮



靖国神社 第一鳥居



鰐島神社



磯に建つ鳥居（大洗磯前  
神社）



平安神宮 大鳥居



伏見稲荷大社 千本鳥居



氣比神宮 大鳥居



山王鳥居（日吉大社）



春日大社一の鳥居





三柱鳥居（木嶋神社）



三ツ鳥居（三峯神社）



ジュラルミン鳥居（飛行神社）



粟嶋神社（宇土市）ミニ鳥居



天安河原宮の神明鳥居（天岩戸神社）



『一遍聖絵』正安元年（1299年）



葛飾北斎『富嶽三十六景登戸浦』文政6年（1823年）



歌川広重『東海道五十三次 藤沢宿』天保4年（1833年）



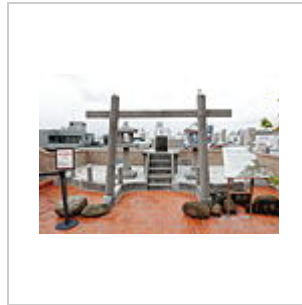
50銭の紙幣 昭和19年（1944年）



27銭の普通切手 昭和20年 (1945年)



仙台市・一番町アーケード街に12月～1月に設置される仮設鳥居。周囲にはイルミネーション、仙台初売りの仙台四郎の幟なども飾られ、キリスト教・神道・民間信仰が同居する。



林百貨店屋上の鳥居（台湾・台南市、一部破損のまま保存）



キャンプ・バトラー

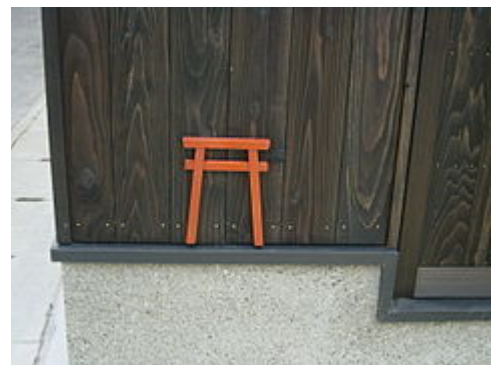


アメリカ陸軍航空隊日本

## 小便避け・不法投棄対策としての鳥居風の置物

飼い主と散歩中の犬によるマーキングや、人による立ち小便を抑止する目的で、塀などに小さな鳥居風の置物を取り付けたり、鳥居風の図を描いたりする事例が見られる<sup>[29]</sup>。これは神聖なものである鳥居に小便をすると罰が当たるといふ日本人の心理を利用したものとなっており、<sup>[30]</sup>、また「設置自体が罰が当たるのではないか？」という日本人の心理に対しては鳥居とは構造の比率が変えてあるなどの工夫もされている。

ゴミの不法投棄を減らす目的でも、鳥居風の置物は利用されている。設置した場所は不法投棄が減った事例があり<sup>[31]</sup>、逆にこれを設置しすぎた為に効果が薄れたと考えられている事例もある<sup>[32]</sup>。



小便避けとして利用されていると考えられる鳥居風の置物

## 脚注

1. <sup>***a***</sup><sup>***b***</sup> 武光誠著『日本人なら知っておきたい神道』河出書房新書出版 2003年
2. <sup>***a***</sup> 2本の門柱を立てたのみの門で、平行材（貫や笠木）を渡さない。
3. <sup>***a***</sup><sup>***b***</sup><sup>***c***</sup> 近藤豊著『古建築の細部意匠』大河出版 1972年
4. <sup>***a***</sup> 地図記号一覧|国土地理院 (<http://www.gsi.go.jp/KIDS/map-sign-tizukigou-h14kigou-itiran.htm>)
5. <sup>***a***</sup> “金峰神社 (<https://www.pref.kagoshima.jp/suisui/35-kinpou/011/>)”。やさしい鹿児島スィスイなび. 鹿児島県障害福祉課. 2017年11月11日閲覧。
6. <sup>***a***</sup> 監修 神社本庁教学研究所『神道いろは』神社新報社、東京都渋谷区代々木1-1-2、2004年4月1日、第4版、132ページ。ISBN 4-915-265-99-4。
7. <sup>***a***</sup> 京都大学附属図書館所蔵 (<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/h248/image/01/h248s0001.html>) 平松文庫『皇太神宮儀式帳』7/76面右から5行目（？）（京都大学）（PDFファイル）
8. <sup>***a***</sup> 『神道大辞典』昭和12年7月15日初版発行平凡社、臨川書店、京都市左京区、1986年4月25日（原著1937年7月15日）、復刻版、1060頁。ISBN 4-653-01347-0。
9. <sup>***a***</sup><sup>***b***</sup> 根岸榮隆「第二節鳥居とは何か、紛々たる諸説、鳥居の起源」『鳥居の研究』第一書房、東京都文京区本郷、1986年10月6日（原著1943-02-11、初版、厚生閣、東京市麹町区）、復刻版、368頁。
10. <sup>***a***</sup><sup>***b***</sup> 『古代朝鮮と倭族 - 神話解説と現地調査』鳥越憲三郎（大阪教育大学名誉教授他）、中央公論（原著1992年12月25日）、初版、129頁、アカ族の習慣。ISBN 978-4-12-101085-8。
11. <sup>***a***</sup> 『古代中国と倭族 - 黄河・長江文明を検証する』鳥越憲三郎（大阪教育大学名誉教授他）、中央公論（原著2001年1月25日）、初版、222頁アカ族に関する出典。ISBN 4-12-101517-7。
12. <sup>***a***</sup><sup>***b***</sup> 『雲南からの道 - 日本人のルーツを探る』鳥越憲三郎（大阪教育大学名誉教授他）、講談社（原著1983年4月25日）、初版、68-70頁アカ族に関する出典。ISBN 4-06-200361-9。
13. <sup>***a***</sup> 日本とヘブライの共通点 ([http://inri.client.jp/hexagon/floorA3F\\_hb/a3fhb010.html](http://inri.client.jp/hexagon/floorA3F_hb/a3fhb010.html))
14. <sup>***a***</sup> ラビ・マーヴィン トケイヤー、「聖書に隠された日本・ユダヤ封印の古代史」。出エジプト記にある、モーセが玄関口の二本の柱と鴨居に羊の血を塗らせ、災いが静かに通り過ぎるまで家の中で待つように指示した故事が鳥居のルーツであるという。
15. <sup>***a***</sup> “満州写真館 風俗風習その1 ([http://www.geocities.jp/ramopcommand/\\_geo\\_contents\\_/090718/Manchukuo00C.html](http://www.geocities.jp/ramopcommand/_geo_contents_/090718/Manchukuo00C.html))”。2016年2月6日閲覧。
16. <sup>***a***</sup> "アカ族のパトオー・ピー（精霊の門）の写真<http://maesai.main.jp/page068.html>
17. <sup>***a***</sup> "アカ族のパトオー・ピー（精霊の門）の写真<http://akon.sakura.ne.jp/torii/torii.html>
18. <sup>***a***</sup> "アカ族（Akha）のパトオー・ピー（精霊の門）の写真 [http://en.wikipedia.org/wiki/File:Gate\\_leading\\_to\\_the\\_akha\\_hilltribe\\_village.jpg](http://en.wikipedia.org/wiki/File:Gate_leading_to_the_akha_hilltribe_village.jpg)
19. <sup>***a***</sup> “弥生・古墳時代の鳥形製品 (<http://www.maibun.com/DownDate/PDFdate/maibuai/59.pdf>) （PDF）”. 愛知県埋蔵文化財センター. pp. 3/4頁（2000年1月31日）. 2010年1月10日閲覧。
20. <sup>***a***</sup> 長山靖生『偽史冒険世界 カルト本の百年』ISBN 448003658X
21. <sup>***a***</sup> この項目については三田克彦「16.鳥居の原型と冠木、唐居敷の変遷：門にみられる長押構造」『日本建築學會論文集』第48号、社団法人日本建築学会、1954年3月30日、121-129頁、NAID 110004854032 (<https://ci.nii.ac.jp/naid/110004854032/>)。から引用している。
22. <sup>***a***</sup> 和名類聚抄、伊呂波字類抄、塩尻、筆のみたま、神祇提要などの古典的辞書はこの説をとる

23. ^ Otto Karow und Dietrich Seckel:Der Ursprung des Torii,1942,Tokyo
24. ^ 高田与清（松屋筆記巻六八、文政年間）、平田篤胤（俗神道大意、万延元年）、喜田貞吉（鳥居の新研究、昭和11年11月）、福山敏男（鳥居に就いて、昭和17年4月）
25. ^ “鳥居、安価な塩ビ製に 県内神社、建て替えなどで採用” (<http://www.shinmai.co.jp/news/nagano/20160509/KT160428FTI090048000.php>). 信濃毎日新聞. (2016年5月9日) 2016年5月9日閲覧。
26. ^ 『京・伏見歴史の旅』 山本眞嗣、山川出版社、新版、 155頁
27. ^ “inari torii 稲荷鳥居 (<http://www.aisf.or.jp/~jaanus/deta/i/inaritorii.htm>)” (英語). Japanese Architecture and Art Net Users System. 2010年1月10日閲覧。
28. ^ ナヴィ インターナショナル『あなたは3つ言えますか? 日本の三大雑学236』 幻冬舎〈幻冬舎文庫〉、2003年7月、370-372頁。ISBN 978-4344403925。
29. ^ Google検索結果 (<http://www.google.co.jp/search?q=%E9%B3%A5%E5%B1%85+%E7%8A%AC+%E5%B0%8F%E4%BE%BF>)
30. ^ 日本経済新聞 電子版 2014年2月2日 ([http://www.nikkei.com/news/print-article/?R\\_FLG=0&bf=0&ng=DGXNASIH2100D\\_S4A120C1AA1P00&uah=DF140620106846](http://www.nikkei.com/news/print-article/?R_FLG=0&bf=0&ng=DGXNASIH2100D_S4A120C1AA1P00&uah=DF140620106846))
31. ^ 朝日新聞 DIGITAL 2009年3月17日 (<http://www.asahi.com/eco/TKY200903170148.html>)
32. ^ 朝日新聞 DIGITAL 2009年1月3日 (<http://www.asahi.com/national/update/1228/TKY200812280217.html>) ※ページは消去

## 参考文献

---

- 『鳥居の研究』 著：根岸榮隆（第一書房）2007年1月 ISBN 4-8042-0506-3
- 『鳥居 百説百話』 著：川口謙二〔他〕（東京美術） ISBN 4-8087-0371-8
- 『鳥居』 著：稲田智宏（光文社） ISBN 4-334-03167-6

## 関連項目

---

- 神道
- 神社
- 神域
- 依り代
- 天岩戸
- 鎮守の森
- 注連縄
- 茅の輪
- 扁額
- 三柱鳥居
- 三ツ鳥居
- 両部鳥居
- 稲荷（稲架掛け）

## 外部リンク

---

- 神社本庁 (<http://www.jinjahoncho.or.jp/>)
    - 神社のいろは 鳥居について (<http://www.jinjahoncho.or.jp/iroha/jinja/index.html>)
  - 神社と神道（神社オンラインネットワーク連盟） (<http://jinja.jp/>)
    - 鳥居 ([http://jinja.jp/modules/chishiki/index.php?content\\_id=28](http://jinja.jp/modules/chishiki/index.php?content_id=28))
  - おみやさんcom内コンテンツ、鳥居について (<http://www.omiyasan.com/torii/>)
  - Torii - Japanese Architecture and Art Net Users System (<http://www.aisf.or.jp/~jaanus/deta/t/torii.htm>) （英語）
- 

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=鳥居&oldid=74721422>」から取得

---

**最終更新 2019年10月22日 (火) 06:52**（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。